



木村大作監督 ★いよいよ本年6月20日 全国ロードショー★

映画「劔岳点の記」応援企画

出演者連続インタビュー

第7回

螢 雪次郎 氏

(写真手前。後左は蟹江一平さん、右は仁科 貴さん)

ある時、監督が
「お前ら、それでも活動屋か!」と
叫んだことがあった。
それが、何というか、
ちょっと僕は感動でした。

THE JOURNAL OF JOURNEY 2009 2 43

ある時監督が、「お前ら、それでも活動屋か!」と叫んだことがあった。それが何というか、ちょっと僕には感動でした。「活動屋」という言葉は死語になってしまったと思っていたから。今回のスタッフの仕事ぶりは、これが活動屋魂なんだなと感じさせるものだったというか... いいものを見たと思いました。

僕が映画の仕事をはじめたのは30歳過ぎてからで、もともとは舞台なんで。お笑いグループなんかもやってました。食べられなくても苦じゃなかった。好きなことやってるんだから当然だと思っていたし。楽観主義というところはあるでしょうね。

こういう僕のこの年齢と、キャリアが、この木村組に、宮本金作役に呼んでくれたんだなという意味では、ラッキーだったと思う。10年前だったらこの役には呼ばれなかったかもしれないし、木村さんも10年前だったら、撮ろうと思わなかったかもしれないし。本当にこのタイミングなんだと思いますね。

螢 雪次郎 ほたるゆきじろう

1951年、埼玉県出身。最近の映画出演作「阿修羅上の瞳」「犬神家の一族」「クライマーズ・ハイ」。

「笑う警官」が今秋公開予定。